



1 開催の目的

日本の原風景ともいえる農村・里山等緑豊かな自然が広がる「京都丹波」において、恵まれた環境と文化的価値、その魅力を地域に暮らす人々と訪れる人々が共に享受し、新たな地域振興のポテンシャルを生む機会をつくと共に、都市と農村の交流を促進し「こころ豊かなライフスタイル」による新たな時代の幸福社会の実現に寄与することを目的とします。

2 開催の意義

○ 京都丹波の財産といえる自然等の資源を活かす

「環境」 を尊び

- ・ 地域生態系や農地・里山の風景を守り、活かす
- ・ 自然を敬い、自然と共にある暮らしの提案
- ・ グリーン・ツーリズム、エコツーリズム、ガーデンツーリズム等による花と緑のまちづくり



○ 「食農」を基幹とした地域経済の活性化

「食農」 を興し

- ・ 都市と農村の連携の促進、交流人口の増加
- ・ 産官学民の協働による共感・共創のまちづくり
- ・ 地場農産品のブランド化、付加価値の向上



○ 文化・芸術を通じた地域の魅力発見と振興

「芸術」 を魅せる

- ・ 創造的で文化的な表現活動を通じたまちづくり
- ・ 若い世代が憧れ、魅力を感じるまちづくり
- ・ 地場産業・産品を育む諸活動の支援



3 開催の基本方針

京都丹波の地域色豊かな環境や風景、文化を体感・体験することにより、もうひとつの京都の魅力を堪能するフェア

- ・ フェアの開催に合わせて京都丹波を巡りながら、地域の歴史、伝統、食、産業・技術等の資源を体感・体験することにより、これまでの京都観光とは違う日本の原風景など京都丹波の魅力を国内外の人々に向け発信します。

「食農」を基幹とした都市と京都丹波地域の交流による新たなライフスタイルを提案するフェア

- ・ コロナ禍を経験し、効率性と便利さを追求した都市生活を離れ、「心の豊かさやすらぎ、安心安全な暮らし」を基調としたゆとりある地域での生き方、過ごし方を見直すことで、新たなライフスタイルを発見する好機とします。

子どもたちの豊かな感性を育み、「ふるさと」を愛する地域の担い手を育てつないでいくフェア

- ・ 未来を担う子どもたちの心身の健やかな成長の実践の場を提供すると共に、文化・芸術による地域の魅力の発見や情報を発信することで、豊かな暮らしを定着させる機会とします。

4 名称等

- ・ **名称**
第43回全国都市緑化フェアin京都丹波
(以下「京都丹波フェア」)
- ・ **開催テーマ**
食農と環境そしてアートで輝く「京都丹波」
- ・ **愛称**
京都丹波みどりの里まつり
- ・ **シンボルマーク**



- ・ **イメージキャラクター**
亀岡市、南丹市、京丹波町のマスコットキャラクター「明智かめまる」、「さくらちゃん」、「京丹波味夢くん」を京都丹波フェア用にアレンジして活用します。



- ・ **開催期間**
令和8(2026)年9月18日(金)～11月8日(日)をコア期間とします。
コア期間以外でも、京都丹波地域の様々な祭事・催しと積極的に連携し、地域の魅力を伝えていきます。
- ・ **入場方式**
各施設への入場について、京都丹波フェアとしては料金を徴収しません。
既存の有料施設は、各運営主体が定める現行の料金体系とします。
特定のイベントやプログラムは、別途料金の徴収を検討します。
- ・ **提唱**
国土交通省
- ・ **主催**
京都府、亀岡市、南丹市、京丹波町、
公益財団法人都市緑化機構

【開催地域位置図】



5 事業展開の基本的な考え方

- ・ 京都丹波フェアの事業全体を通じて、積極的に環境に配慮した取り組みを行うことで、地域の環境の価値の再認識につなげます。また、かけがえのない地域の環境を守っていくことの大切さが共通認識となり、次世代に継承され、活動が継続していくことを目指します。
- ・ 京都丹波フェア開催の効果を一過性で終わらせないことを念頭に、フェアで行う様々な取り組みがレガシーを創出し、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につながるような事業展開を目指します。

フェア会場

基本的な考え方

- 京都丹波地域には、多様な魅力をもつ資源や資産があり、京都丹波フェアでは、フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、京都丹波地域全体を一つの会場とします。
- 京都丹波地域の特徴や資源・資産の魅力を感じられるエリアや場所を地域の周遊・観光の拠点やスポットに位置づけ、京都丹波地域を満喫していただくフェアとします。



フェア拠点

計画方針

- 京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を訴求する拠点として、5つのフェア拠点それぞれの立地や特徴、施設状況や管理状況を踏まえたコンセプトを定め、そのコンセプトに基づいて各コンテンツを展開します。展開する様々なコンテンツに、京都丹波地域の食や、地域を盛り上げていく文化・芸術・環境の要素を取り入れます。
- 地域住民間や地域住民と来場者間の交流を図り、地域への理解を促し、愛着を育み、京都丹波地域を盛り上げるため、京都丹波フェアの主要なコンテンツ（展示・出展・行催事など）を多様な主体との協働・共創によって展開します。
- 各地域のランドスケープにふさわしい花や修景方法をプランニングし、農家をはじめ多様な主体と連携することにより、京都丹波らしい「農の風景」を演出します。
- 参加者にとって有益な機会となるように配慮し、各コンテンツを展開します。
- 会場内の周遊・観光を促進するため、京都丹波地域の持つ多様な魅力や交通手段を紹介する情報コーナーを設けると共に、地域を周遊、観光する拠点としての機能を持たせます。
- 人々にみどりの有用さを実感していただき、グリーンインフラ活用の取り組みを推進するため、みどりについての情報を提供するコンテンツ、みどりを利用するコンテンツ、みどりに触れるコンテンツなどを展開します。また、グリーンインフラを意識した整備を行います。
- 多様な人々が楽しめるように、バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮します。
- 出展展示計画・行催事計画と連携し、使用する植物は、植物の特性と共に、京都丹波地域内や京都府内の生産状況や特徴、園芸産業の振興の観点を踏まえて選定します。
- 使用する植物は、京都丹波地域内を中心に、京都府内で生産あるいは調達される植物を基本とします。
- 地域住民への花きの普及、京都丹波フェアを契機とした新たな交流を生み出すことを目指して、使用する植物の一部については、協働推進計画と連携して、地域住民の協力・連携の下での育成、調達を目指します。
- 生産団体や生産者、行政などとの連携・協力による安定的な生産・調達を目指します。
- 使用した植物、材料などは、安易に廃棄することが無いよう、再利用に取り組みます。

フェア拠点の展開イメージ

京都・亀岡保津川公園および周辺（京都丹波の農に触れる拠点）の事業展開イメージ

京都丹波地域の豊かな自然と、その上に成り立つ営みである農の体感・体験を通じて、地域や農、環境への理解を促し行動変容につながる拠点

京都丹波の自然素材を使ったアート

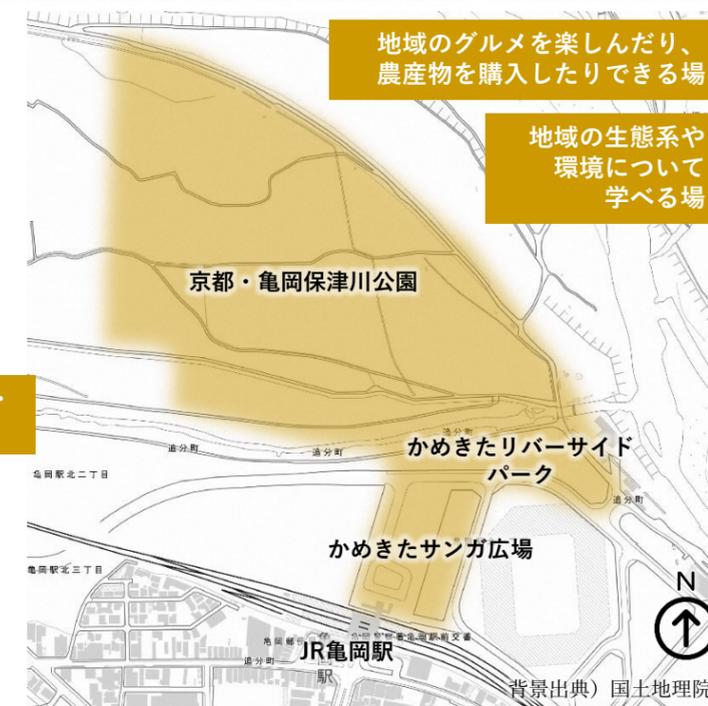


作品性のある農小屋を活用したアート



地域のグルメを楽しんだり、農産物を購入したりできる場

地域の生態系や環境について学べる場



協働でつくる「農家の庭」



オーガニック農園体験エリア・市民農園エリア



亀岡運動公園および周辺（京都丹波の造園・園芸を知る拠点）の事業展開イメージ

隣接するコスモス園と連携したスケール感のある華やかな修景の中で、多様な主体による屋外展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、地域の魅力を発見・再認識して地域づくりへとつなげる拠点

デザイナーによるメインガーデン



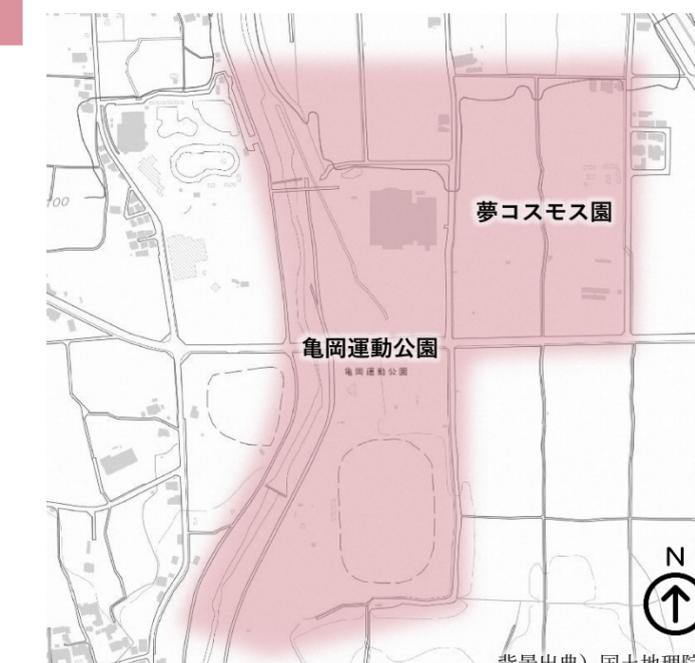
愛好家のハンギングバスケットとコンテナガーデン



フェアのテーマに沿った庭園作品



自治体によるPR出展



協働でつくる修景花壇



全国造園デザインコンクール受賞作品



陸上競技場の壁を活用した空間装飾

園部公園および周辺（京都丹波の歴史・文化を知る拠点）の事業展開イメージ

歴史を感じさせる落ち着いた修景の中で、多様な主体による屋内展示やコンテンツを楽しむと共に学びを深め、京都丹波地域への愛着を深める拠点

伝統芸能、祭事
などの文化体感



多様な主体との
協働による作品



京都丹波フェアらしい
シンポジウムや講演など



史跡や食を巡るサイクル
ツアー、グルメツアー

京都丹波地域の
眺望を楽しむ場

健幸緑花のまちを
PRする事業



わち山野草の森および周辺（京都丹波の植物に触れる拠点）の事業展開イメージ

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶと共に京都丹波の魅力に触れる拠点

みどりのトンネル



山野草展の開催



アート作品
イベント



山野草理解を深める
イベント

地域のグルメを楽しめる
ミニイベント



地元産材を使った
小・中学生のプランター作品

京都府立丹波自然運動公園および周辺（京都丹波のグルメ・イベントを楽しむ拠点）の事業展開イメージ

地域の食や、花や緑の普及啓発をはじめとした地域の魅力を伝える多様なイベントを通じて、人が集まり、交流し、地域の魅力を満喫する拠点

地域のグルメを
楽しめるイベント



地元産材を使った小・中学生
のプランター作品



田んぼアート



地域住民による菊花展



わち山野草の森および周辺（京都丹波の植物に触れる拠点）の事業展開イメージ

京都丹波地域の豊かな緑・多彩な植物との触れ合いを通じて植物の豊かさ、大切さを学ぶと共に京都丹波の魅力に触れる拠点

みどりのトンネル



山野草展の開催



アート作品
イベント



山野草理解を深める
イベント

地域のグルメを楽しめる
ミニイベント

地元産材を使った
小・中学生のプランター作品

フェアスポット 計画方針

- フェアスポットは、これまでのキャンペーンなどでピックアップされた施設や場所に加え、地域住民だからこそ知っている京都丹波の魅力を表現するスポットを収集し、地域性や回遊性などを考慮しながら、一定のストーリーのもと、歴史や文化、その地域ならではの魅力に触れ、認知を深めるような仕組みを目指します。
- 京都丹波をより印象深く感じてもらうための体験価値の向上に向けて、交通輸送計画、協働推進計画、広報宣伝計画などと連携し、フェアスポットごとの魅力に留まらず、京都丹波地域全体の魅力として効果的に伝えます。

展開イメージ

- フェアスポットのストーリーとは、京都丹波地域全体または地域ごとの魅力の「なぜ」を空間軸や時間軸で魅せる物語を持った文脈のことを指し、フェアスポットを単なる場所の集まりではなく、意味のあるつながりを持った体験として提示するための枠組みとします。
- ストーリーは、フェアスポットにおける体験や京都丹波の周遊プランの構築も見据えて設定し、各計画と連携することでより効果的なものとします。



※フェアスポットは未決定

7 観客誘致・広報宣伝計画

観客誘致計画

計画方針

- 広報宣伝と連携し、京都丹波フェアの準備段階から、対象とするエリアやターゲットごとに最適な手法を用い観客誘致活動を展開します。
- 効率的かつ効果的に誘客広報を推進するための広報誘致戦略を企画展開します。
- 京都丹波の地域資源、観光資源、イベントなどを活用し、誘客効果の最大化を図ります。
- 京都丹波フェアの準備段階における協働の取り組みやアイデアなどを発信することで、開催機運を高め、誘客効果の最大化を図ります。
- 京都丹波地域外の方への誘致活動を積極的に展開します。

広報宣伝計画

計画方針

- 京都丹波フェアの準備段階から知ってもらい、関わってファンになってもらう広報宣伝活動を展開します。
- 観客誘致計画と連動し、エリアやターゲット、費用対効果を踏まえた広報宣伝活動を展開します。
- 計画段階におけるリサーチ、検討プロセスを発信する広報宣伝活動を展開します。
- 京都丹波フェアに参画する様々な主体による口コミ、協賛、個別広報など、多くの人が広報を担える仕組みの構築を目指した広報宣伝活動を展開します。
- 公式ホームページの開設やデジタル広告などの情報インフラ整備、活用などを進め広報活動を展開します。

8 協働推進計画

計画方針

- 既存の取り組みとの連携などにより、多様な主体やボランティアによる会場づくり、出展展示、広報宣伝などの関連事業の計画や、その実施と運営への参画を積極的に促します。
- 次世代の育成を目的とした協働に関する取り組みを展開します。
- 地域課題の解決につながる取り組みと地域間の連携をつくるプログラムの開発を行います。
- 多様な主体やボランティアが、フェア終了後も京都丹波地域のまちづくりで活躍できるための仕組みづくりと協働企画を、フェアを通じて行います。

展開イメージ

1) 協働の対象となる主体の想定と各主体へのアプローチ方法

① 協働の対象となる主体の想定

- 地域の様々な課題解決に取り組む活動を行っている人・団体
- 環境・食農・芸術を学ぶ人、生業とする人、関心のある人・団体
- その他、京都丹波フェアにおける協働に関心のある人・団体

② 各主体へのアプローチ方法

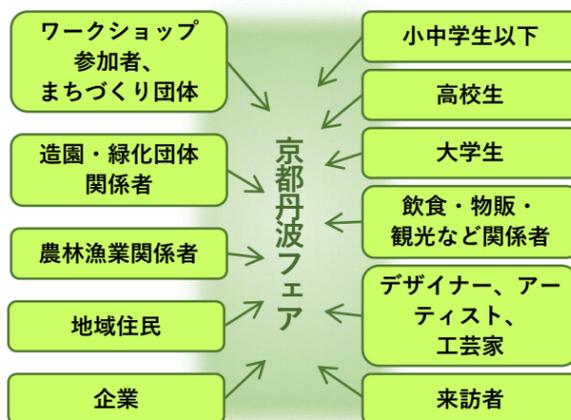
- 協働の対象となる主体のリサーチ
- ↓
- グループでのワークショップやヒアリングなどにより、具体的な協働に関する企画とその実施・運営方法の検討
- ↓
- 実施計画以降、各企画の実施・運営方法を各主体と協働して具体化

2) 各計画における協働の内容

- 基本計画の段階から各計画の内容に関する共有と意見の収集などを行い、協働企画への積極的な参画を促します。

3) 各主体における協働の内容

- 基本計画の段階からワークショップやヒアリングなどを行い、協働企画のアイデアを収集して実施します。



9 出展展示計画

展示計画

計画方針

- フェア拠点に展開する展示は、各場所のコンセプトに合わせた展示とし、京都丹波地域が持つ様々な地域資源に触れ、その魅力を体感できる展示とします。
- 心を豊かにする文化・芸術を展示に取り入れると共に、京都丹波全域の芸術家が活躍できる場を創出します。
- 展示は、主催者が制作・創出する「主催者展示」と、主催者と多様な主体との協働により制作・創出する「協働展示」に大別します。
- 協働展示については、京都丹波フェア開催前から実施する協働の取り組みと一体的に行います。地域の未来の担い手となる個人や団体など幅広い主体に参加していただき、協働でつくりあげることで、フェア閉幕後の京都丹波地域の持続的な発展や活性化につなげる展示とします。
- 展示に使用する植物や資材などは、各拠点のコンセプトや景観、雰囲気、展示の内容、地域で産出されるものであるかなどを踏まえて設定します。また、環境に配慮した素材選びに努めます。

展示の区分

区分	定義
主催者展示	京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が計画・設計・施工（製作）・運営管理を行う展示
協働展示	京都丹波フェアの目的・意義・基本方針を踏まえ、主催者が多様な主体と共に計画・設計・施工（製作）・運営管理の全て又はその一部を参加協働で行う展示

出展コンテンツ計画

計画方針

- 花と緑に関わる全国からの様々な主体による出展に加え、京都丹波地域ならではの新しい主体の参加や、新しいスタイルでの出展手法を取り入れ、全国性と地域性が融合されたコンテンツとすることで、京都丹波フェアの魅力づくりにつなげます。
- 出展者や来場者にも環境について考えていただく機会となるよう、京都丹波地域の自然、花・緑、歴史、文化・芸術、農などを念頭に置いた出展のテーマや作品形態、出展手法を設定するなど、随所に京都丹波らしさを盛り込んだ内容とします。
- 出展者にも京都丹波フェアのつくり手となっていただき、共に連携して相乗効果を高めることにより、フェア開幕に向けた機運醸成を図ります。
- 全国都市緑化フェアの開催要綱および実施要領に基づき、造園技術や花や緑の活動に対するコンテンツに加え、地域で活動する人々に焦点をあてた京都丹波フェアらしい参加メニューに対する評価顕彰システムを設定し、地域活動の継続や発展につなげます。

展示の区分

区分	出展の種類
屋外出展	自治体出展
	緑化関係の企業団体等出展
	地元企業・団体等出展
	全国造園デザインコンクール
	学校出展（小学校、中学校）
	個人出展
屋内出展	地域住民出展
	山野草の展示



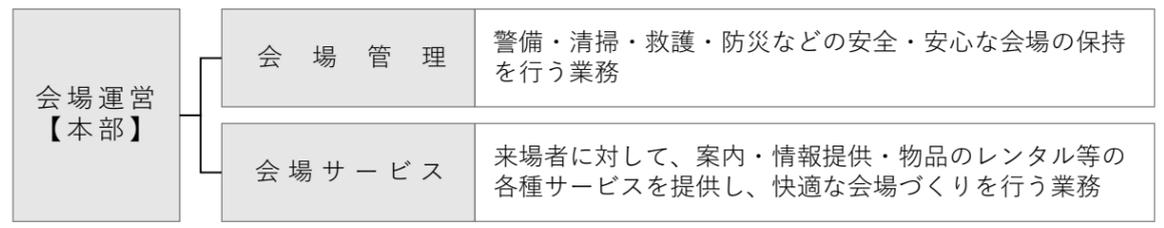
10 会場運営管理計画

計画方針

- 会場運営管理は、安全・安心な会場の保持を行う「会場管理」と、来場者に対して快適な会場づくりを行う「会場サービス」の2つに大別します。
- 会場では、会場管理と会場サービスを基本に、来場者やボランティアの安全性や快適性の確保に努めるため、運営体制の構築と必要な施設の設置を行います。
- 会場運営管理においても、環境に配慮した取り組みを推進します。
- 地域住民、企業、団体、NPOなどとの協働による管理運営手法を積極的に導入します。
- 過去の全国都市緑化フェアにおける実績や現状の管理、運営状況などを踏まえ、運営体制の構築と必要な施設の設置を行います。
- 多くの住民が、楽しみながら無理なくボランティア活動に参加できる機会を創出します。
- ボランティア活動のフォロー体制の拡充とボランティア同士の友好の醸成を図ります。

会場運営管理計画の区分

- 会場運営を「会場管理」と「会場サービス」の2つに大別し、それぞれ業務項目ごとに各会場の計画方針の検討を行います。



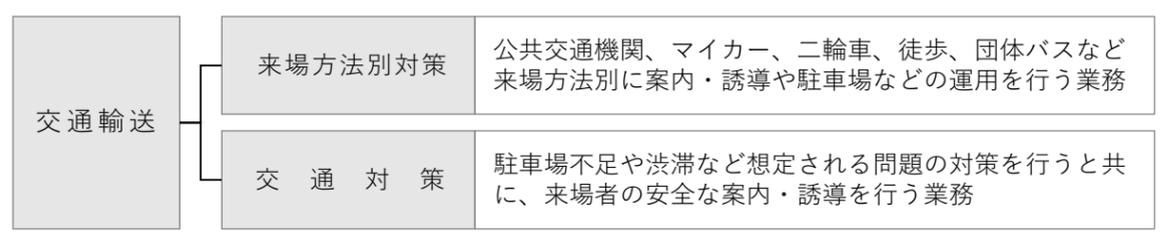
11 交通輸送計画

計画方針

- 交通輸送は、来場方法別に案内・誘導や駐車場などの運用を行う「来場方法別対策」と、想定される問題の対策を行うと共に来場者の安全な案内・誘導を行う「交通対策」の2つに大別して、効果的で効率的な交通計画を立案し、快適で円滑な交通輸送体制の構築に努めます。
- 過去の全国都市緑化フェアにおける実績や現状の管理、運営状況などを踏まえた想定を行い、周辺環境にも配慮しながら交通輸送体制を検討します。
- 京都丹波地域の魅力を伝えるための交通手段の利用についても、積極的に検討します。

交通輸送計画の区分

- 交通輸送を「来場方法別対策」と「交通対策」の2つに大別し、業務項目ごとに各会場の計画方針の検討を行います。「交通対策」については、動員予測の結果から想定される諸問題の対策を検討し、計画方針を設定していくものとします。



12 行催事計画

計画方針

- 行催事は、フェアの節目に行う「公式行事」と、開催前のPRや開催中の多様なイベントや催しである「催事」の2つの事業に大別します。
- 「催事」は、主催者が主体的に行う「主催者催事」、多様な主体が運営主体となる「ティアアップ催事」の2つに区分します。
- 企業および地域と連携したティアアップ催事の受け入れ体制を整備し、多くの地域住民や企業、団体、個人が参加・参画できる「場づくり」を通じて、多くの主体によって京都丹波フェアを盛り上げる行催事を展開します。
- 幅広い世代に対して、2市1町の環境・食農・芸術の催事を通じて京都丹波を体験、体感し、京都丹波の自然や文化の魅力を「再発見」する催事を展開します。
- グローバルな視点で参考にしたり参画したくなるような、協働をベースとした自然共生の推進のあり方を表現し深める機会を提供します。

行催事の内容

区 分		内 容	
公式行事	内覧会	開催前に地域住民の方々やマスメディア関係者などを招待し、フェア拠点などをお披露目する行事	
	開・閉会式	フェアの開会及び閉会時に執り行う式典	
	全国都市緑化祭	フェアの中心的行事として、都市緑化の推進を図り、潤いあるまちづくりに寄与することを目的とした皇室のご来臨による式典	
催事	主催者催事	プレイベント	フェア開催前に潜在的な来場者・関係者の巻き込みや特定のテーマに絞った機運醸成をおこなうために開催するイベント
		カウントダウンイベント	フェアの開幕の1年前や100日前などの節目に行う、開幕に向けた機運を高めるイベント
		テーマ催事	京都丹波フェアでテーマとして掲げる環境・食農・芸術についてそれぞれ焦点を当てた企画
		フェア催事	京都丹波フェアの全体テーマにかかわるシンポジウムや展示など
	ティアアップ催事	企業団体テーマ催事	京都丹波フェアのテーマに合致するイベントについて、企業や団体などが主体となりつつ、主催者催事に準ずる形で開催する催事
		企業団体PR催事	フェアスポットや催事協賛などの協賛を通じて、京都丹波フェアの趣旨に賛同する主体により開催する催事
		地域共催催事	地域協働の活動を通じて、フェア実行委員会サポートのもと地域住民や団体により開催される催事
		地域主催催事	公募等により地域住民や団体が主体となって京都丹波フェアを盛り上げる催事



計画方針

- 生産者や飲食店、民間事業者などと連携・協力して、地域の農産物や特産品などを使用した京都丹波ならではの魅力ある飲食・物販サービスを提供します。
- 各フェア拠点のコンセプトを踏まえ、京都丹波らしい魅力的な飲食・物販サービスを提供します。
- 広報宣伝計画などとの連携により京都丹波地域の農産物や特産品などを効果的にPRし、「京都丹波」の認知拡大を目指します。
- フェア拠点における出店者のみならず、京都丹波地域の民間事業者、団体などへ波及効果が拡大するよう働きかけます。
- 会場における使い捨てプラスチックごみの削減など、来場者や出店者などにも協力を求め、環境に配慮した運営に努めます。



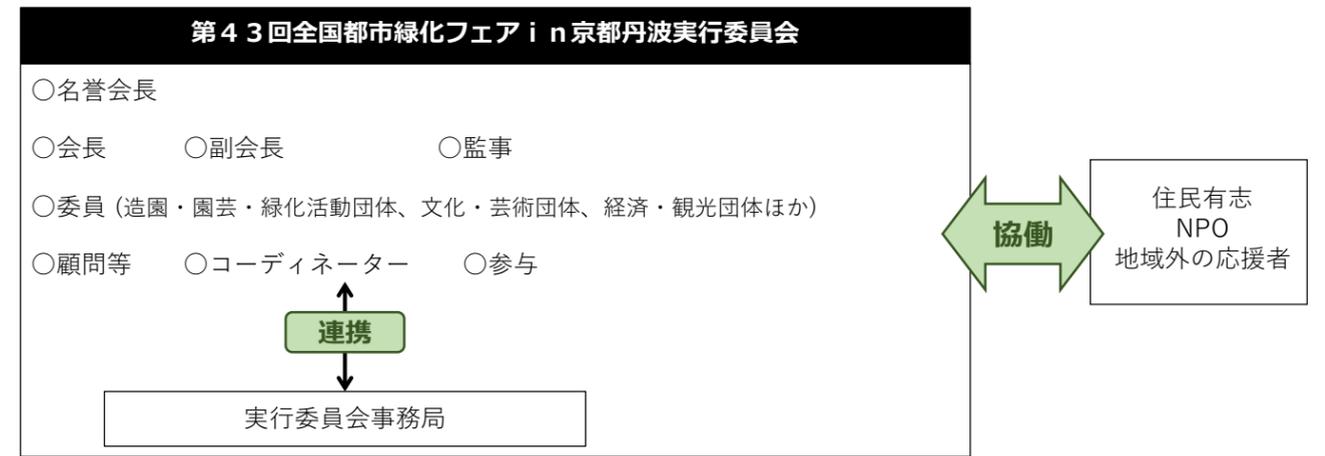
計画方針

- 多様な企業や団体などが京都丹波フェアを通じて社会貢献事業のPRができるよう、参加協賛の最大化を図ります。
- 多様な企業や団体などが京都丹波フェアへ積極的に参加できる仕組みづくりを行います。
- 京都丹波フェアの特性をいかした、地域外からの協賛を呼び込む枠組みを設定し、積極的に推進します。

展開イメージ

区分		協賛内容
直接的支援	協賛金	京都丹波フェア全般に係る費用の一部となる協賛金の提供
	物品提供	京都丹波フェアの運営に必要な物品やノベルティなどの無償提供
	資材提供	京都丹波フェアで展開する各コンテンツの実施に必要な資材の提供
間接的支援	催事	会場における催事の実施、運営および無償タイアップ
	出展	庭園や花壇、パネル、映像、環境技術展示などの出展
	役務	参加交流催事や会場設営、運営管理などへの人的支援(作業協力、技術指導など)
	広報宣伝	広報物の無償掲示や設置場所の無償提供、PR催事やキャンペーン活動に関わる無償タイアップ
	フェアスポット	施設やサービスなどの利活用の連携

事業推進体制



事業スケジュール

項目	2024 (令和6) 年度	2025 (令和7) 年度	2026 (令和8) 年度
計画策定等	基本計画	実施計画	開催準備
事業推進		事業推進 ※可能なものから随時着手 既存の催事・イベントなどをプレ事業として実施	全国都市緑化フェア 持続・継承・発展
会場整備		各フェア拠点・スポットで、 試験植栽・栽培などから適宜着手	
実行体制	実行委員会設立 第1回総会	第2回総会	第3回総会 第4回総会

事業費

- 約6億円（主催者の支出額で、公園整備費など京都府や各市町の支出額は除く）

お問い合わせ

全国都市緑化フェア in 京都丹波推進協議会事務局

〒621-8501 京都府亀岡市安町野々神8番地

TEL : 0771-21-8301

E-mail : ryokka-fair@city.kameoka.lg.jp